間として何等樂音の存在なく、間隙を置くと云ふことはないのである。

◎注意二　尚念の爲め、本譜下段の一に就て一通り說明して見やう、(以下之れに準ずれば宜い)。先づイ音所を中指藥指の二本で押さへ、初め二拍子だけ心の內に數へて、三拍子目に三の糸を開放絃(即ちどこも押さへないで)の儘にて一拍子丈打ち、次に半拍子の間をあけ、こんどは四の糸を半拍子で三音階を打ち撥し、續て四音階を一拍子に打ち、二拍子撥は動さず糸を抑さへた指は其儘にして間をあけ、次の一組は皆同一音階だが、中丈が掬ひ撥となつてをるし、前二つは半拍子である、一拍子の四分の三丈間をあけて、一の糸を開放絃の儘で四分の一拍子丈打

ち、撥を板に着けながら二三の糸の上を滑らし尚四の糸を四音階丈の程度に押さへて待てをるものを發音さして止む、そうして此譜は二の糸から四の糸迄の處で一拍子となる、一拍子間をあけ次に撥面を半拍子丈空(カラ)敲きして尚同拍子四の糸を三音階丈掬ひ撥し、開放絃に三の糸を一拍子打ち、四の糸を尚一拍子打て四音階の音を出す、それから二拍子間をあけ四の糸を四音階に於て、前は掬ひ撥後は打ち撥で各一拍子、同じ事を二度繰返すと、餘韻の變化が來た、そこで最後に打ち撥で四音階の音を響かして居るのであるから、其指を少しく緩めて二音階迄下げ、此度も亦押へた指を三音階迄に再び少しく押へ前後合せて二拍子と次の四分の三拍子の間丈撥を用ひず、次に一の糸を開放絃四分の一拍子に打ち撥し、

引續き三音に押さへて居る四の糸迄二三の糸の開放絃を滑らして、一拍子に拂ひ次の一拍子は糸丈一層強く抑さへて、一音階丈餘韻を上げ、而して四分の三拍子間をあけながら、一の糸を四分の一拍子打て、前同樣四の糸迄拂ひ、四の糸より四音階の音を聞きつゝ二拍子間をもち、同糸で同音丈掬ひ撥を一拍子試み、再び二拍子間、同糸を四音階一拍子初は打ち。終は掬ひ、尙次の組も皆四音を鳴らすのであるが、前二つで合せて一拍子中丈が掬ひ撥、之れに供ふ餘韻を一音階下げて半拍子、それから打撥三音と二音後者は一拍子、次に一音階丈打て掬ひ併せて一拍子となし、直に一拍子づゝ四音を二つ打ち、間一つおいて、尙四音掬ふて同じく一拍子打ち、半拍子間を隔てゝ二音丈餘韻を下げ、四分の三拍子間

をあけ、こんどは三の糸を四分の一拍子打ち開放絃、次に一絃から四絃迄一拍子に拂ふのであるが四の糸丈は二音階丈に押さへてをること、終つて二拍子間、一拍子づゝ三音の掬撥と二音の打撥とを爲し、三の糸を一拍子丈中指にて二音階押さへる、但し四の糸には矢張薬指を緩めてはをるが放さず、二拍子間をあくる間は此三の糸の二音階が依然響て居る譯、然して中指を四の糸へ返し併せて二本の指とし、一拍子二音打ち、一拍子二の糸を又中指にて一音階打ち、尚薬指は四絃より放さず、こんどは示指にて、上の音所を一音階一拍子打ち撥、そのときは薬指中指共に四三の各糸より同時に放すこと、同糸下の音所を同じく二音階一拍子づゝ、指は中と薬、次はその儘で同音階後丈掬ひ撥なれど合せて一拍子、

上の音處に於て前と同樣、終て二の糸を半拍子開放絃打ち、三の糸を二音階下の音所にて半拍子打ちて、上の音所に旋り一拍子、指は示指丈、尙二度之と同樣、然る後一拍子間、以後の開放絃は皆一拍子づゝ、先づ一の糸を二つ打ち一拍子間、三二三二と糸を打つ。

◎注意三　本譜下段の一には、特に口譜を記載し置たが、素より唯音符と打撥か掬撥かと云ふ位より知るに堪へない、極不完全のものに過ぎないけれども、本譜を了解される一助ともならば幸甚として、付記して見た譯であるからして是等に就て色々說明するは、甚しく有益ではなからうが一言して置きたい、それは同く打撥でも各糸に依り又同じ糸でも撥使の方法によつて發音を異に

して書いてある事で、之れは他に深き理由はなく、そういふ様に聞ゆるから付けた音で、即ち、

(イ) 打ち撥で云ば、四の糸はチヤアンと云ひ、一から三迄の糸はトンと云ふ。各之れを半拍子にすれば、前者はチヤ後者はトなる。

(ロ) 掬ひ撥、四の糸はギン、一より三迄の糸ではラン、之を半拍子にすれば、前者はギ、後者はラ又はロとなる。以上は唯元則的説明であつて、各場合々により例外的に色々變て發音する様に聞ゆるときもある。

◎注意四

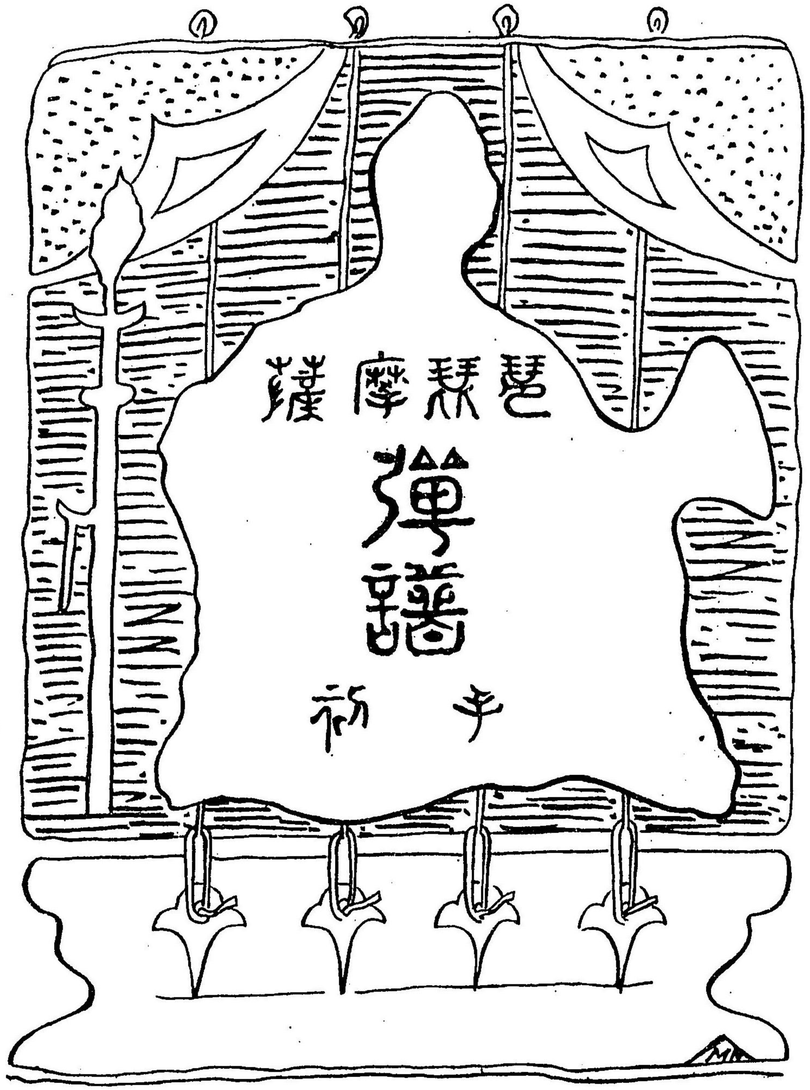
要之、以上の諸樂譜を、其他の類似の和洋樂譜から早合點

して、直に之れと全然同解してはならない、宜しく本譜の說明する處をよく了せられよ。

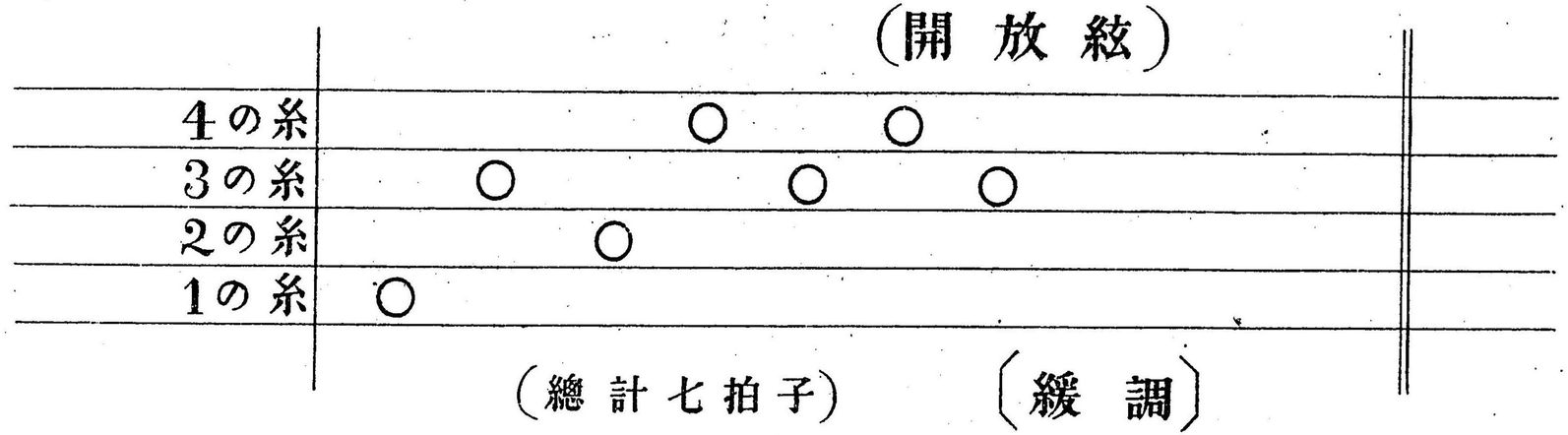
本書中單に琵琶と記したるは、卽ち大唐琵琶の意である。

第四章　樂譜の曲目

調絃律……初
下段の一……1
下段の二……3
中段の一……5
上段……8
下段の三……9
中段の二……11
中段の三……13
吟替、下段の一……15
中段の一……17
崩れ、下段の一……19
同下段の二……21
同中段の一……23
終曲……26

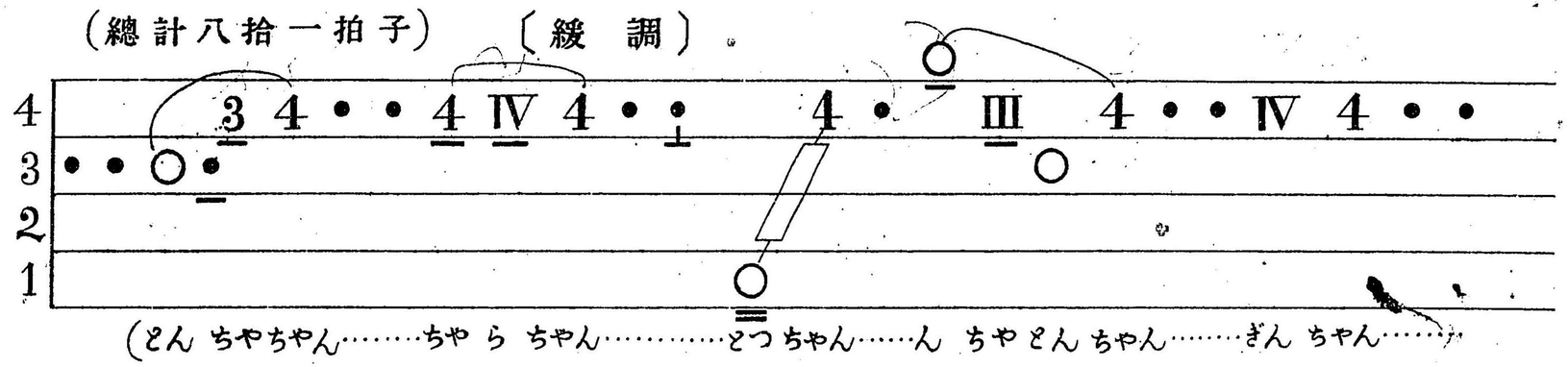

琵琶摩羅
彈譜

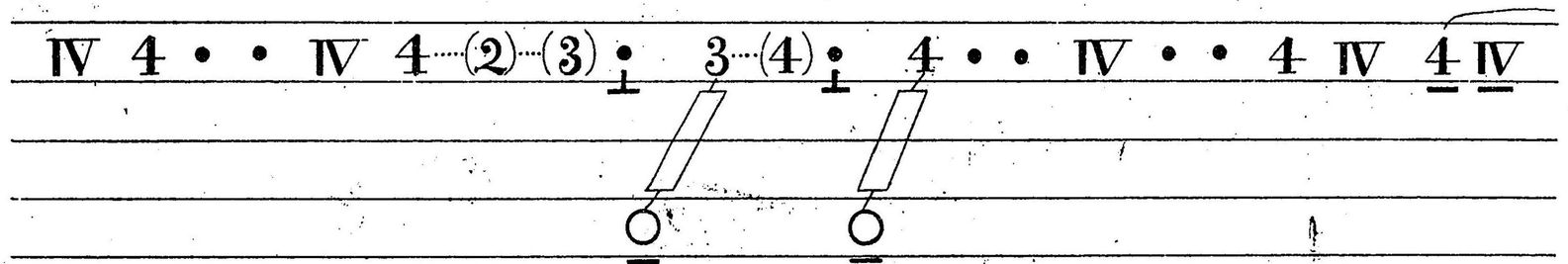
調絃律

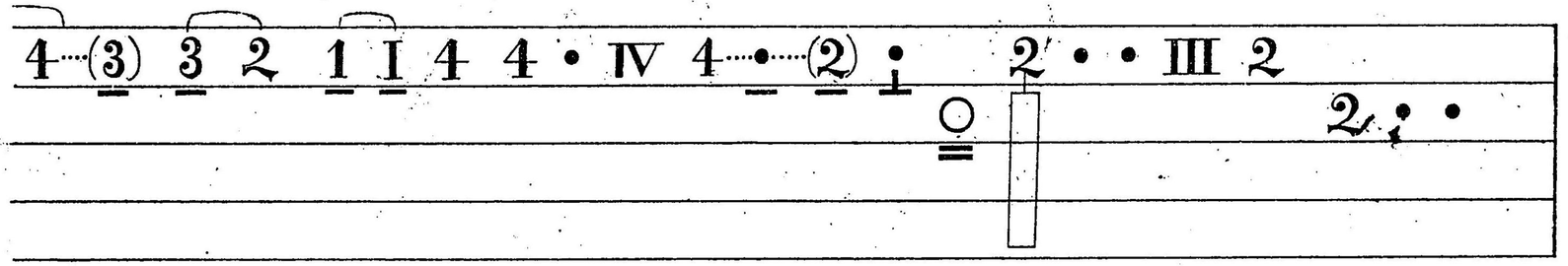


下 段 の 一

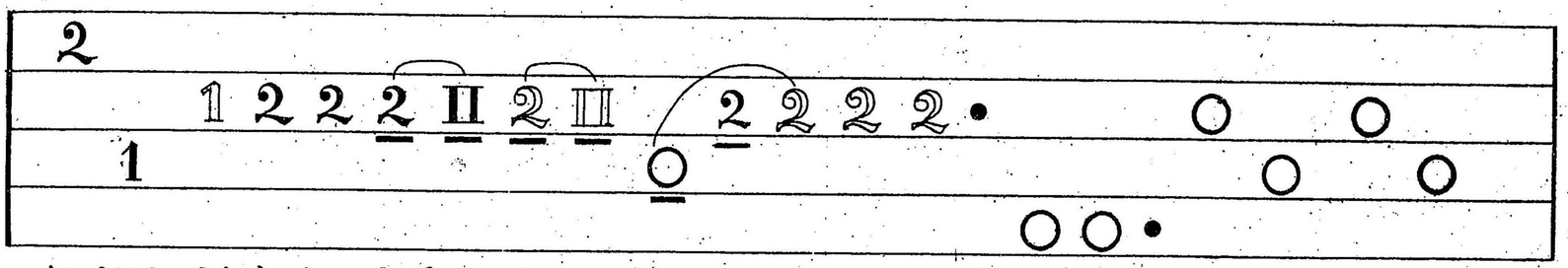
（總計八拾一拍子）　〔緩　調〕





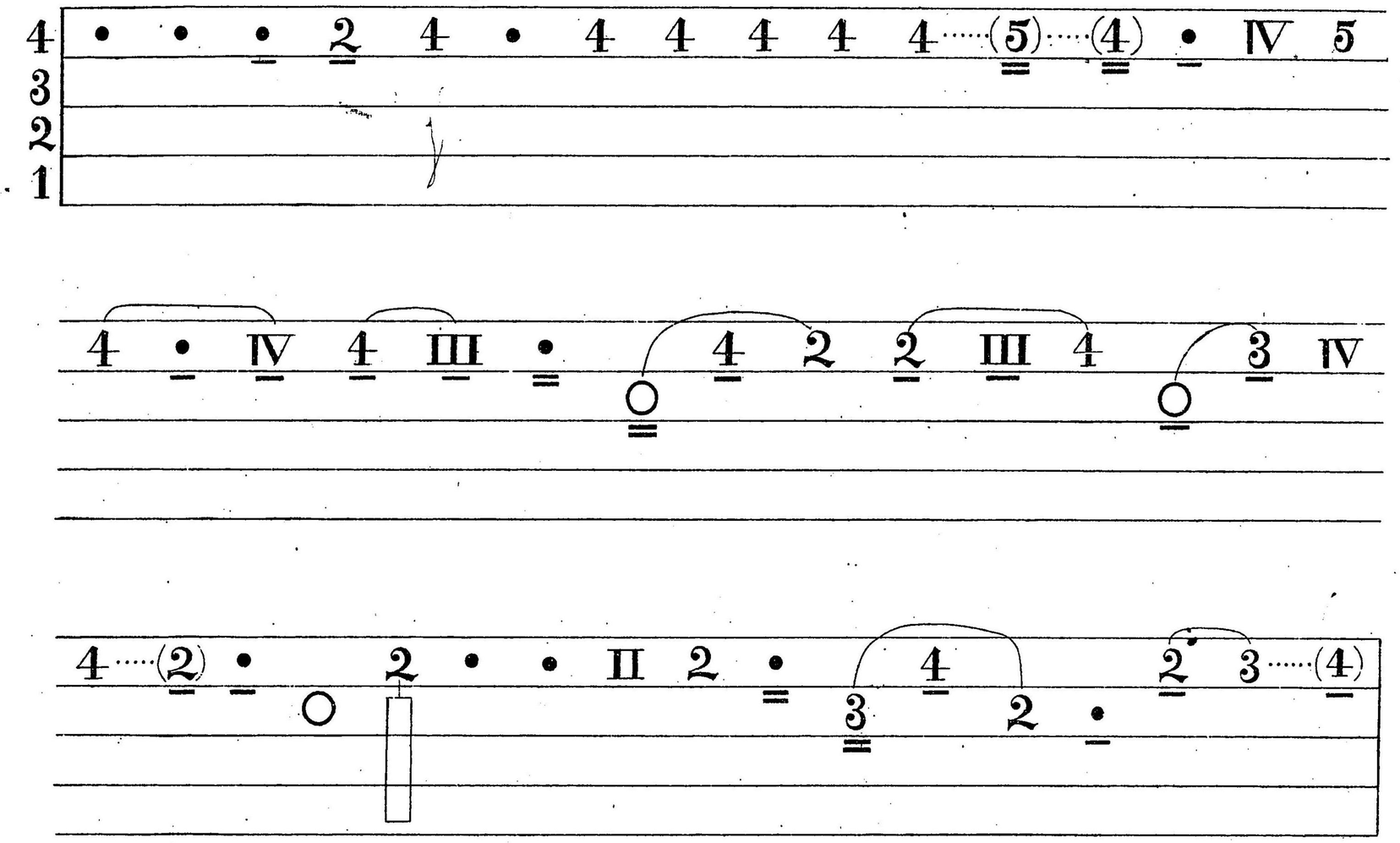


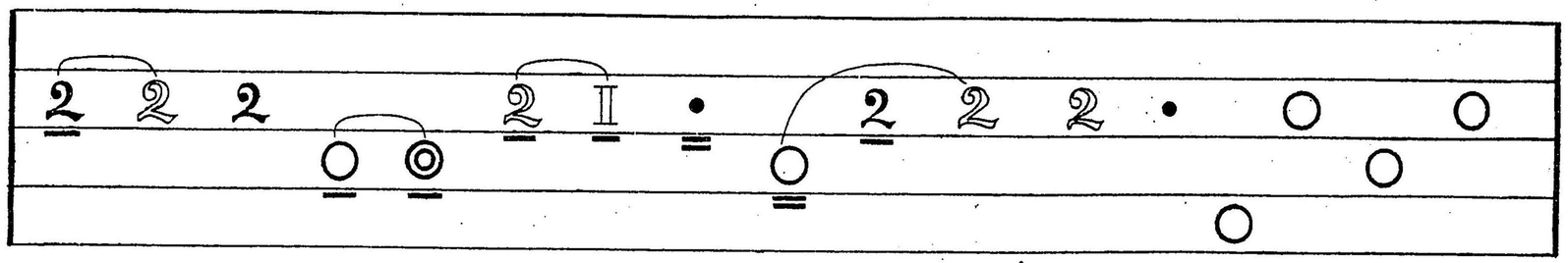
1 ちやん ん ちや ちやん ちやら ちやん々……ぎん ちや ― ん ……とつ ちやん……ぎん ちやん とん……


2
1 2 2 2 II 2 III 2 2 2 2
1
ちやんとん とんとん とろ とろ とて とんとん……とんとん……とんとん)

(總計四拾七拍子)

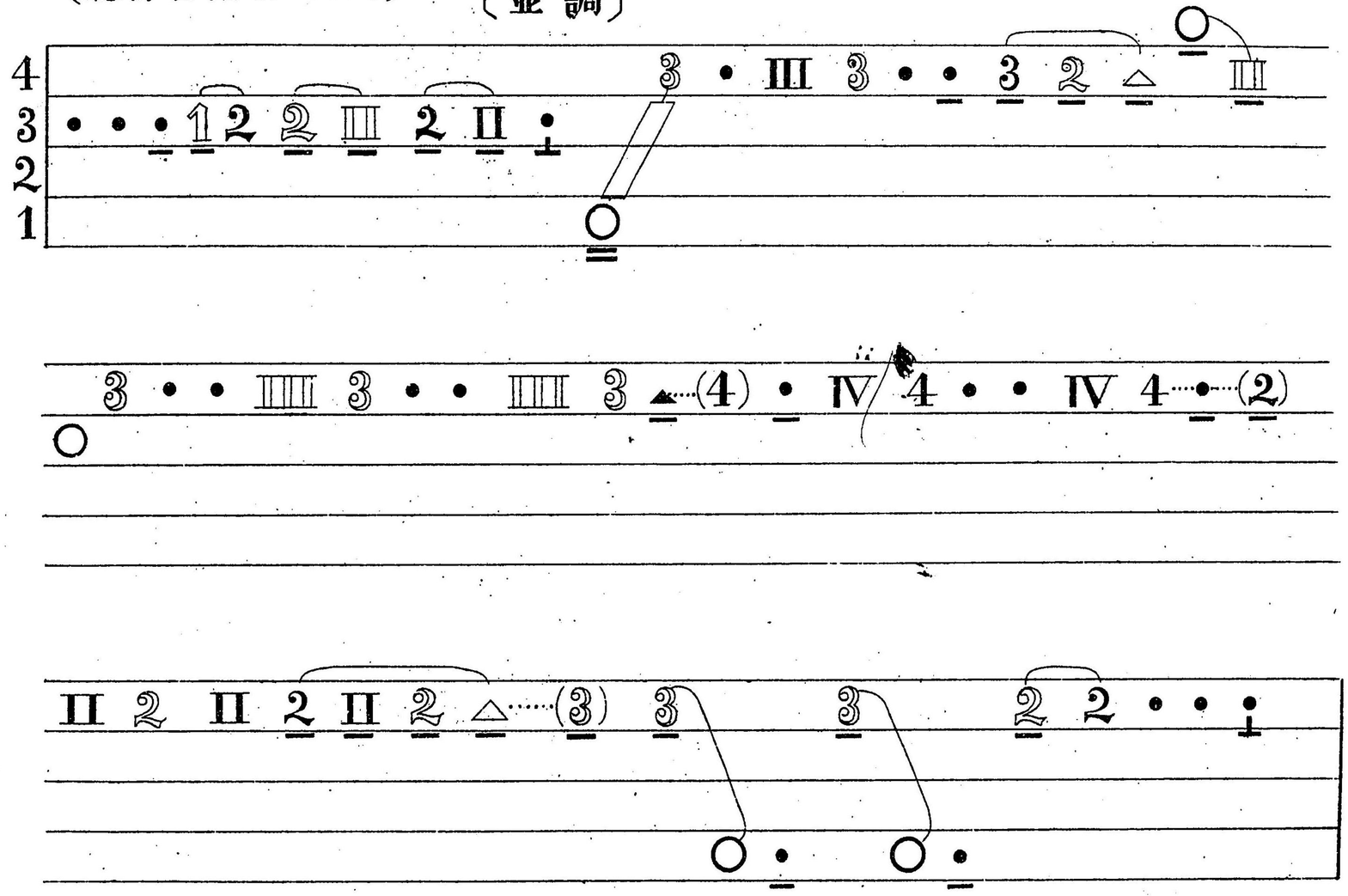
〔並 調〕

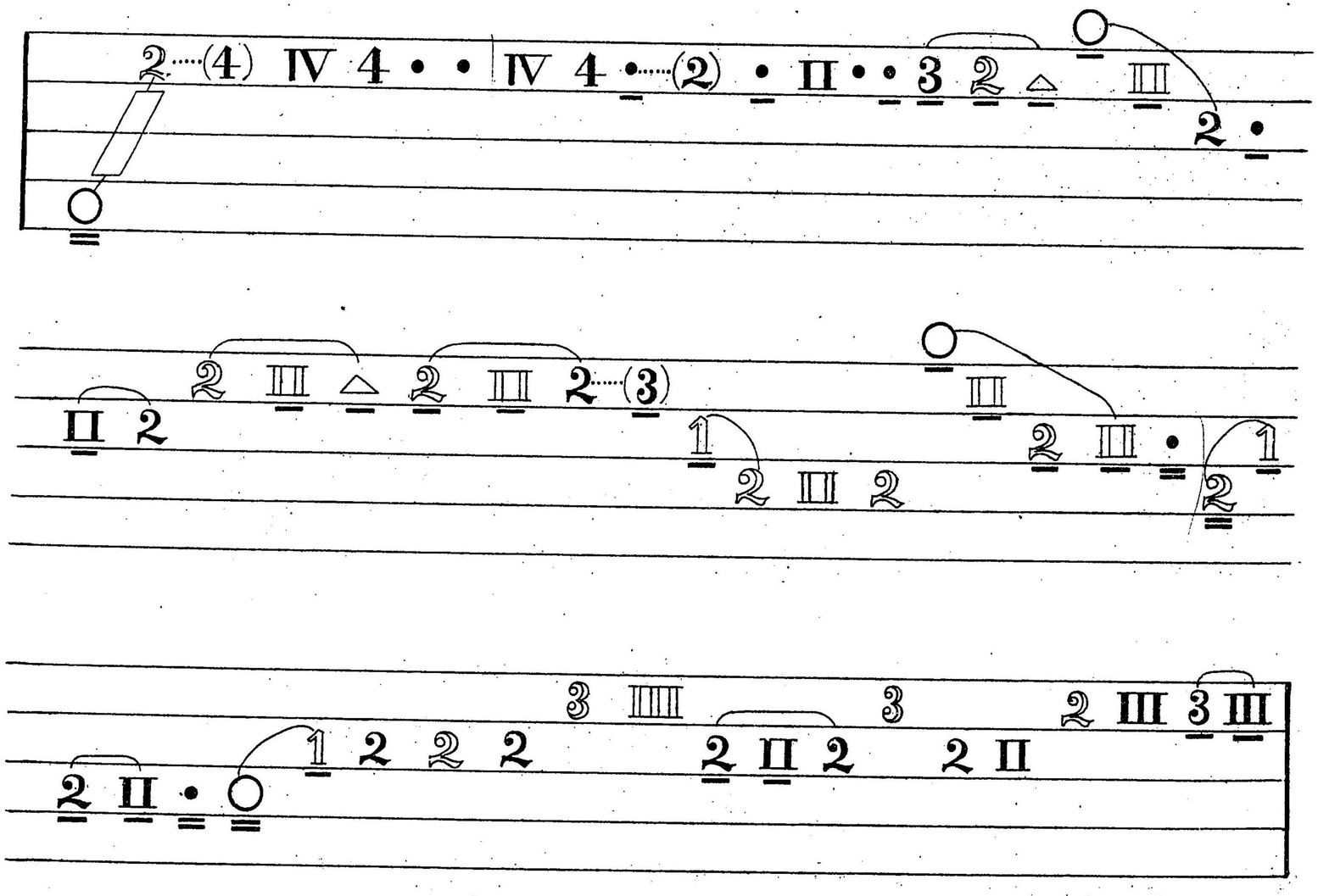


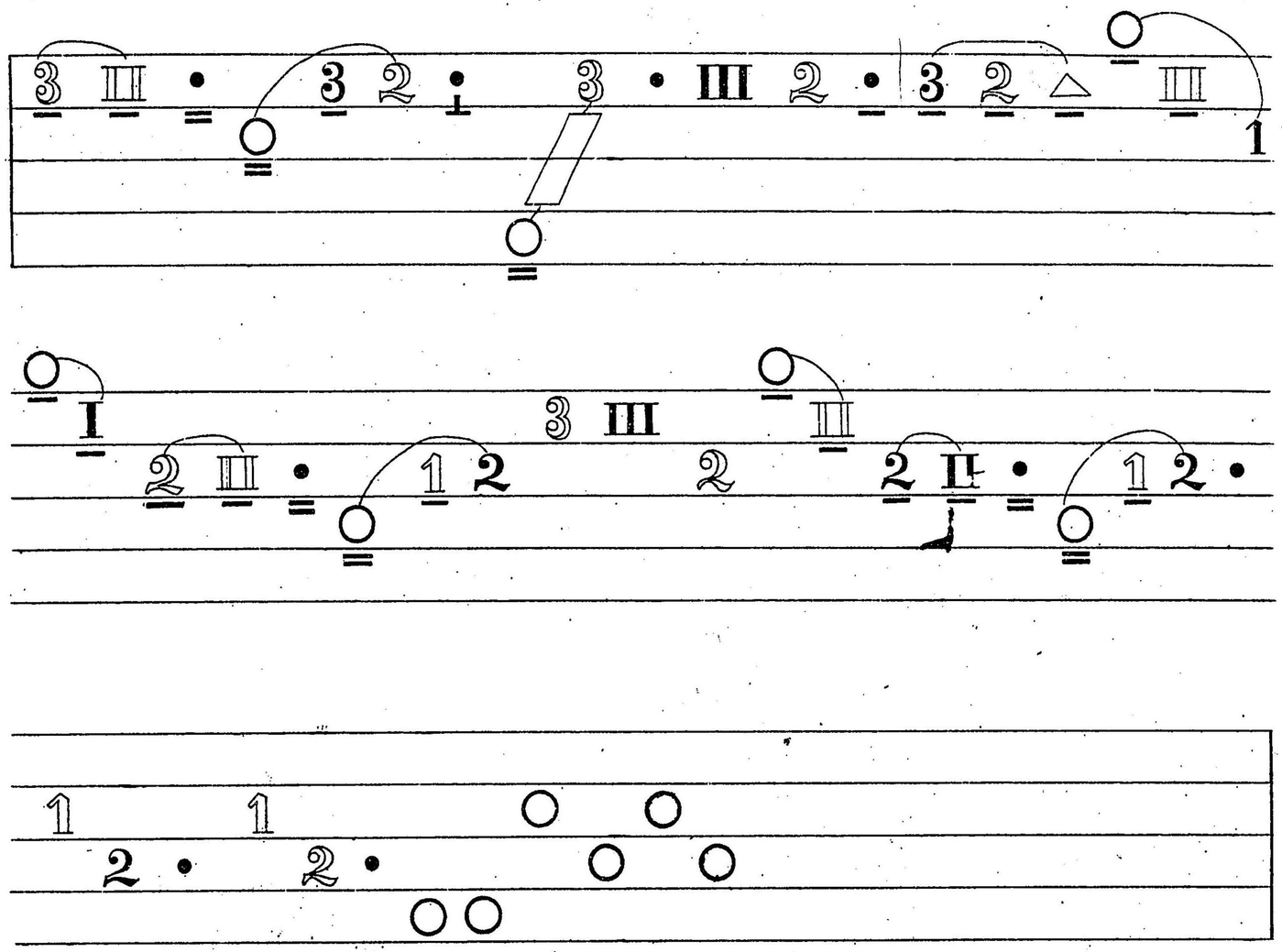


中段の一

（總計百貳拾八拍子）　〔並調〕

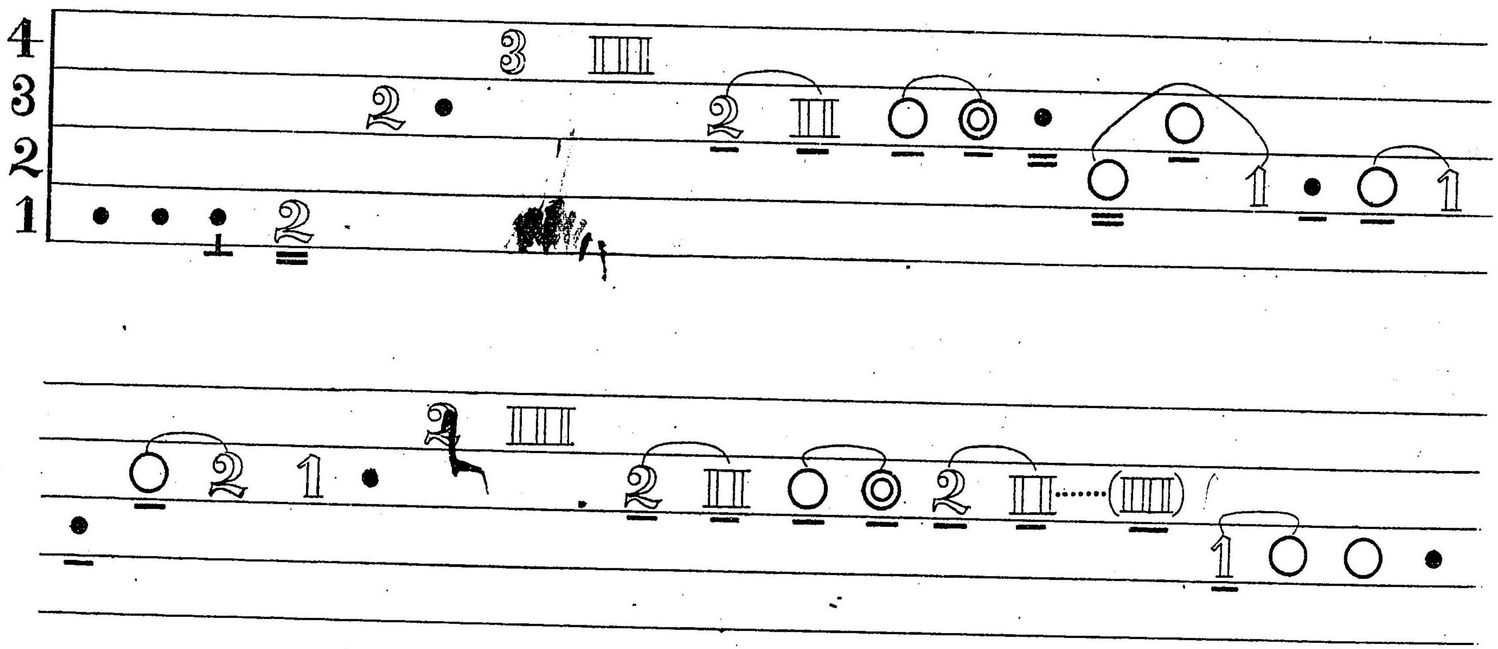


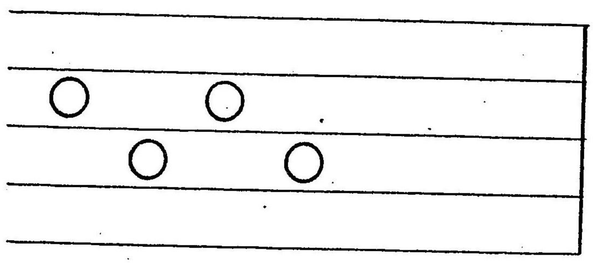

2 (4) IV 4 • • IV 4 (2) • II • • 3 2 △ III 2 •
II 2 2 III △ 2 III 2 (3) 1 2 III 2 III 2 III • 1 2
2 II • 1 2 2 2 3 IIII 3 2 II 2 2 II 2 III 3 III



上　段

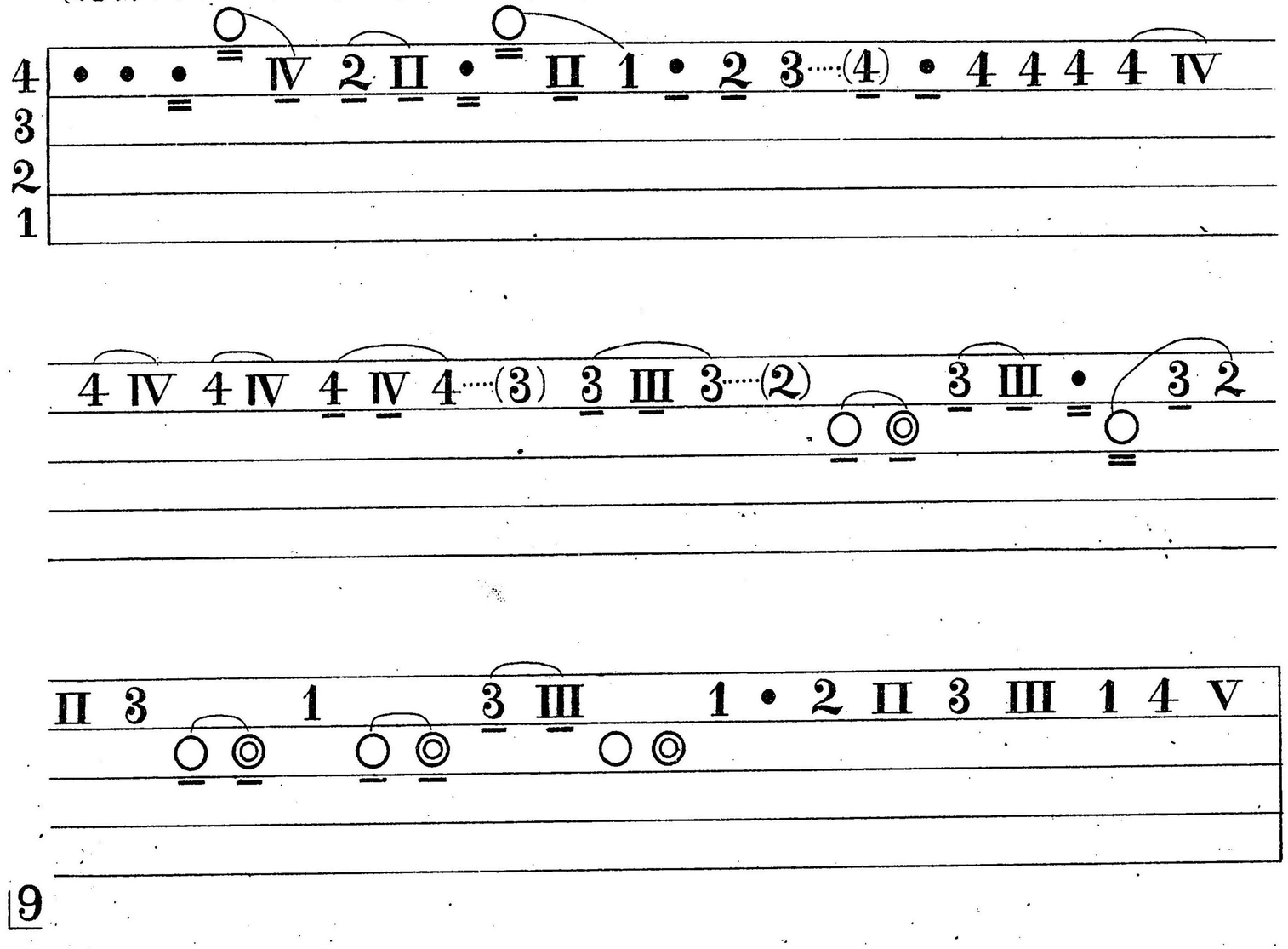
（總計三十拍子）　〔並　調〕

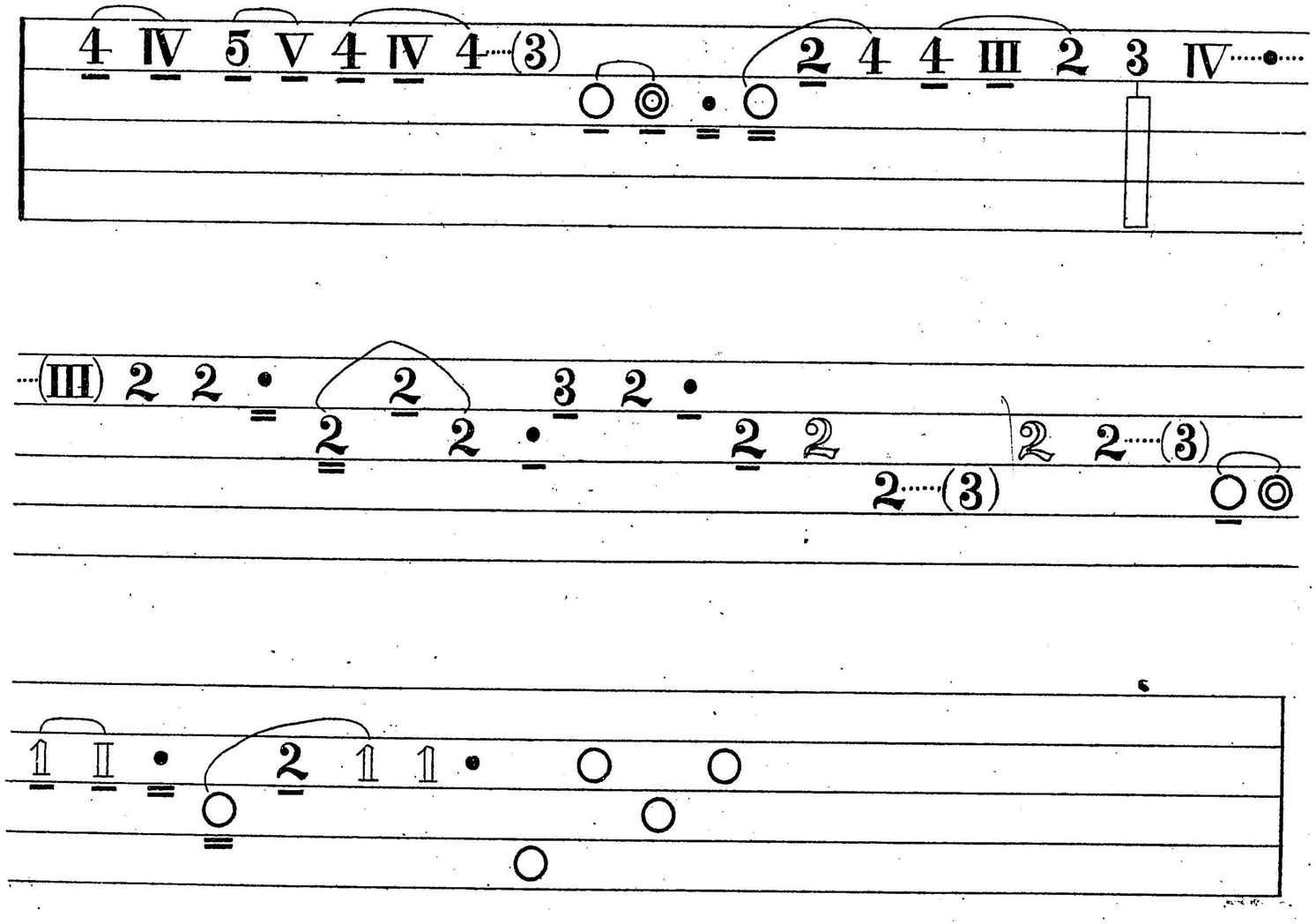




下段の三

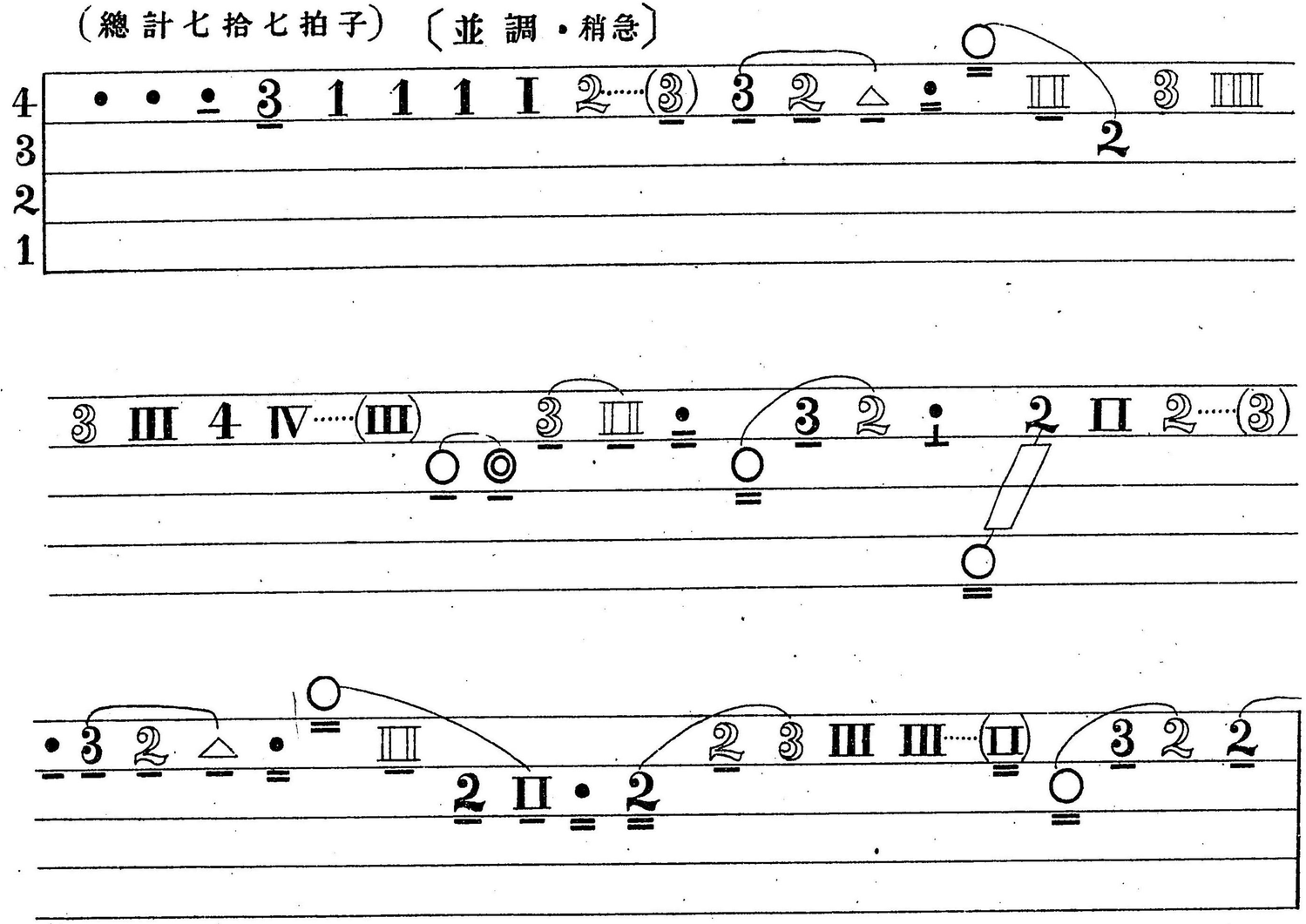
（總計八十二拍子）〔並調・稍急〕

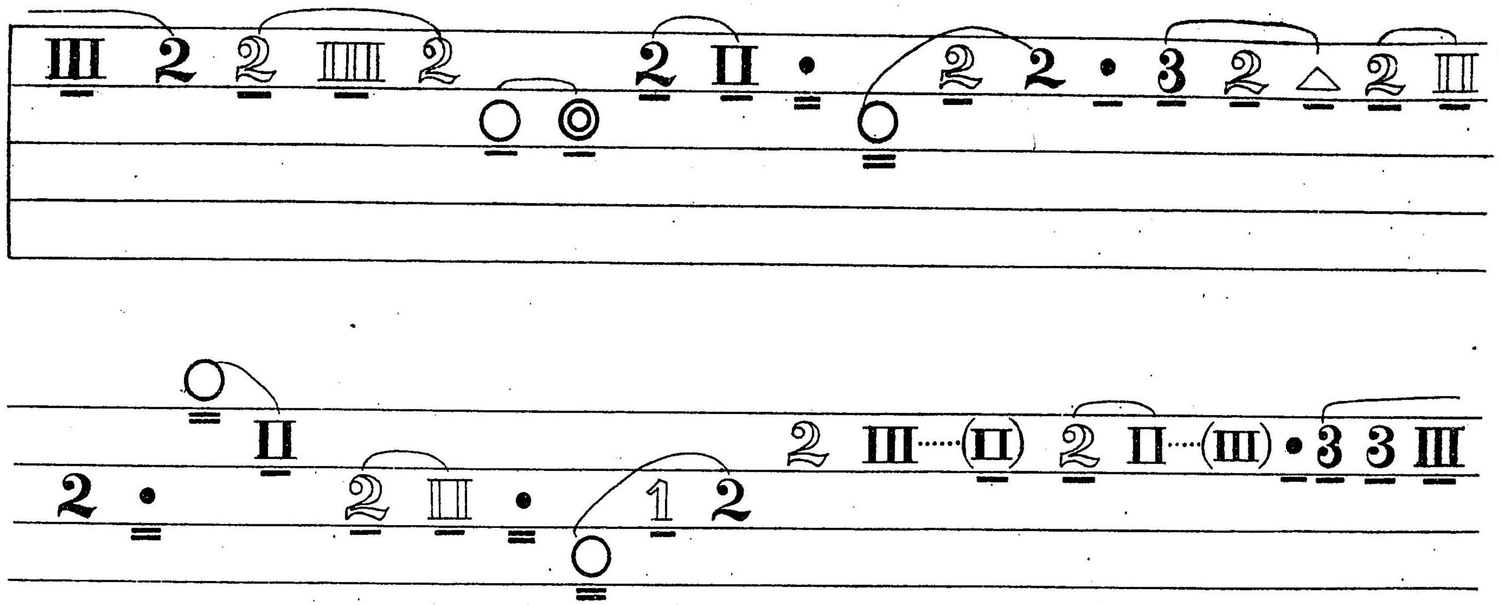


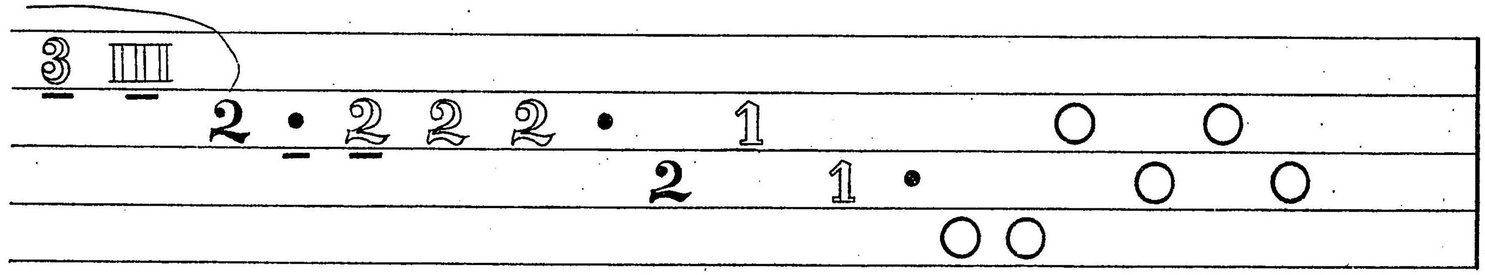

4 IV 5 V 4 IV 4 (3)
2 4 4 III 2 3 IV
(III) 2 2 2 2 2 3 2
2 2 2 (3)
2 2 (3)
1 II 2 1 1

中段の二

（總計七拾七拍子）〔並調・稍急〕

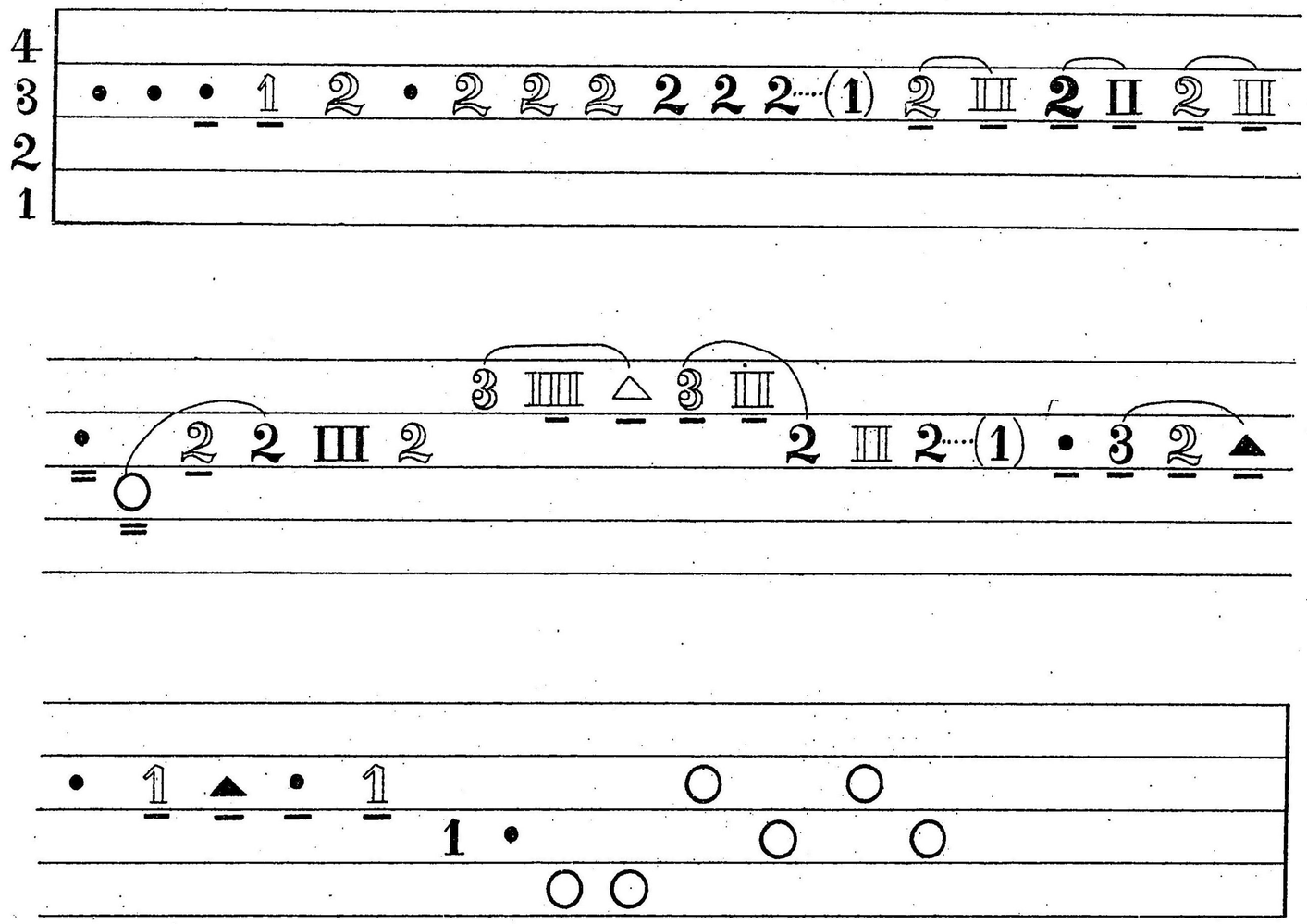






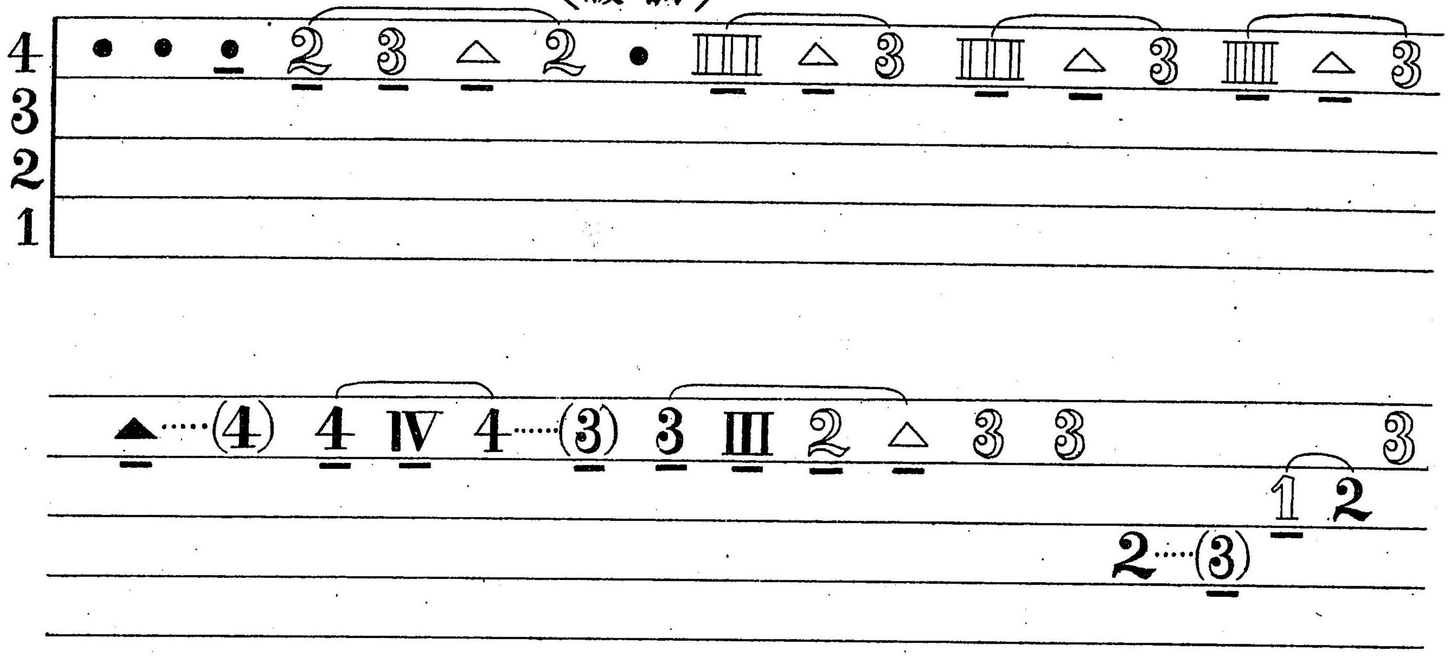
中段の三

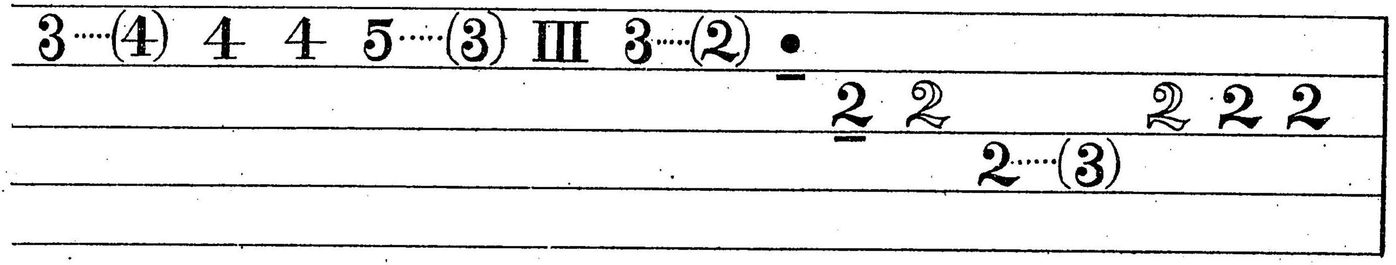
(總計三十九拍子)　〔並調〕

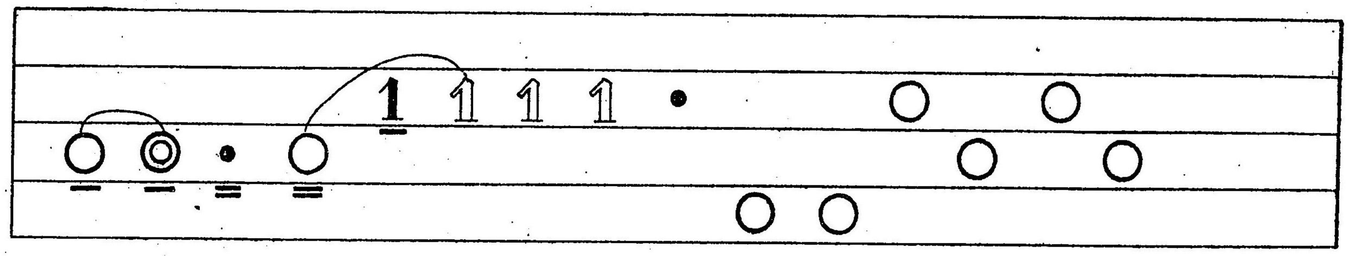


吟替．下段の一

（總計拍子五十二）　〔緩調〕

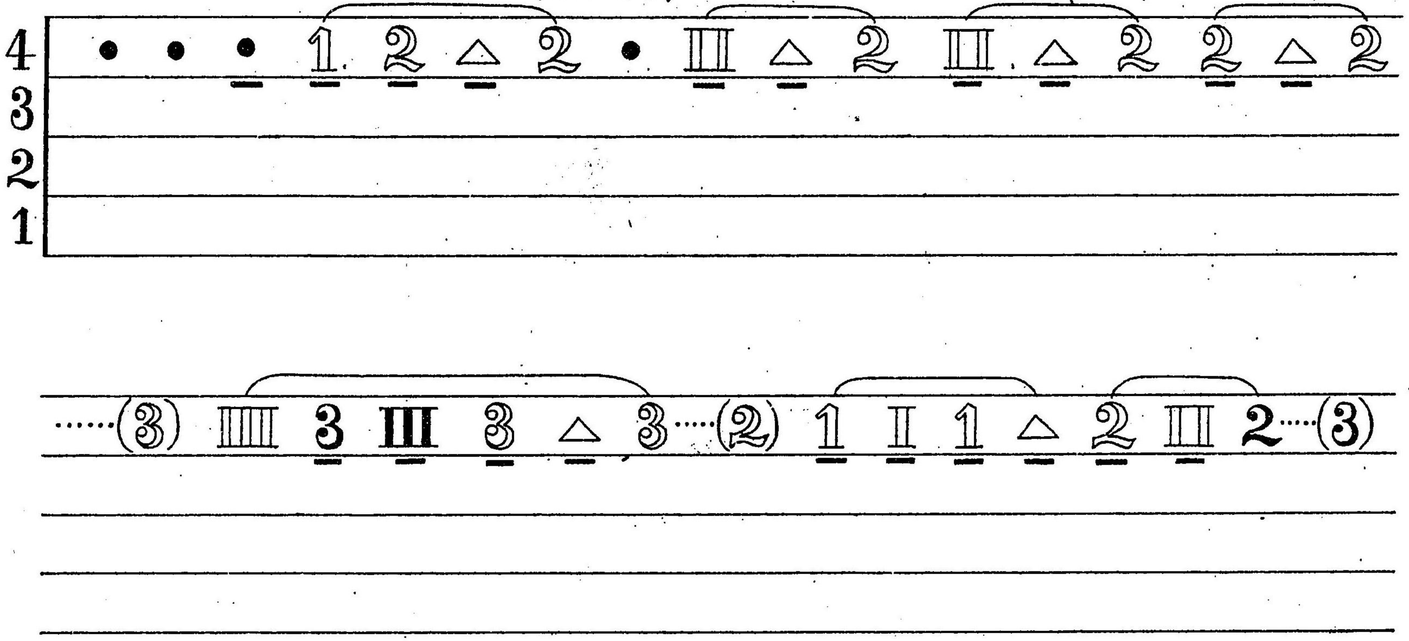


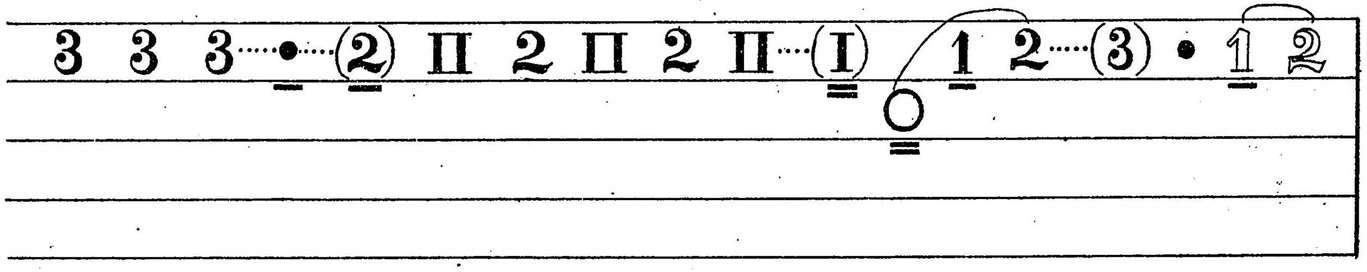


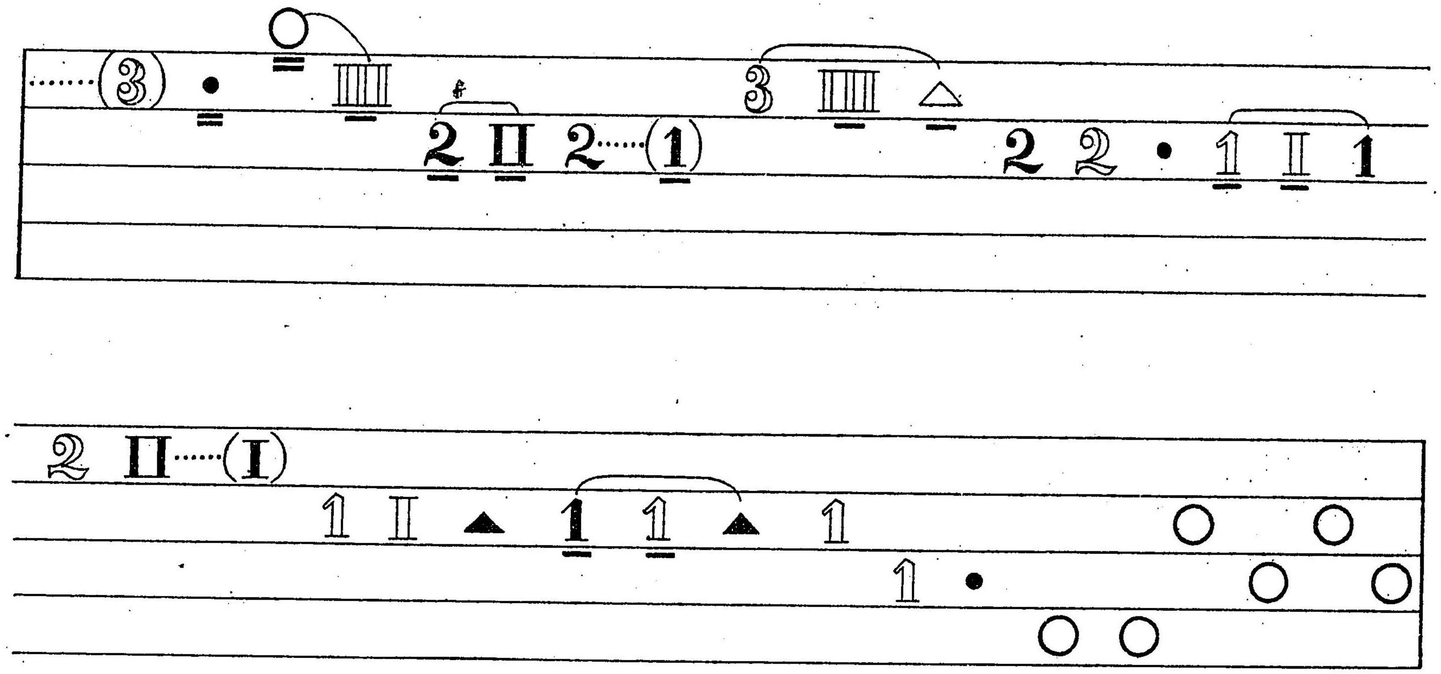

1

吟替．中段の一

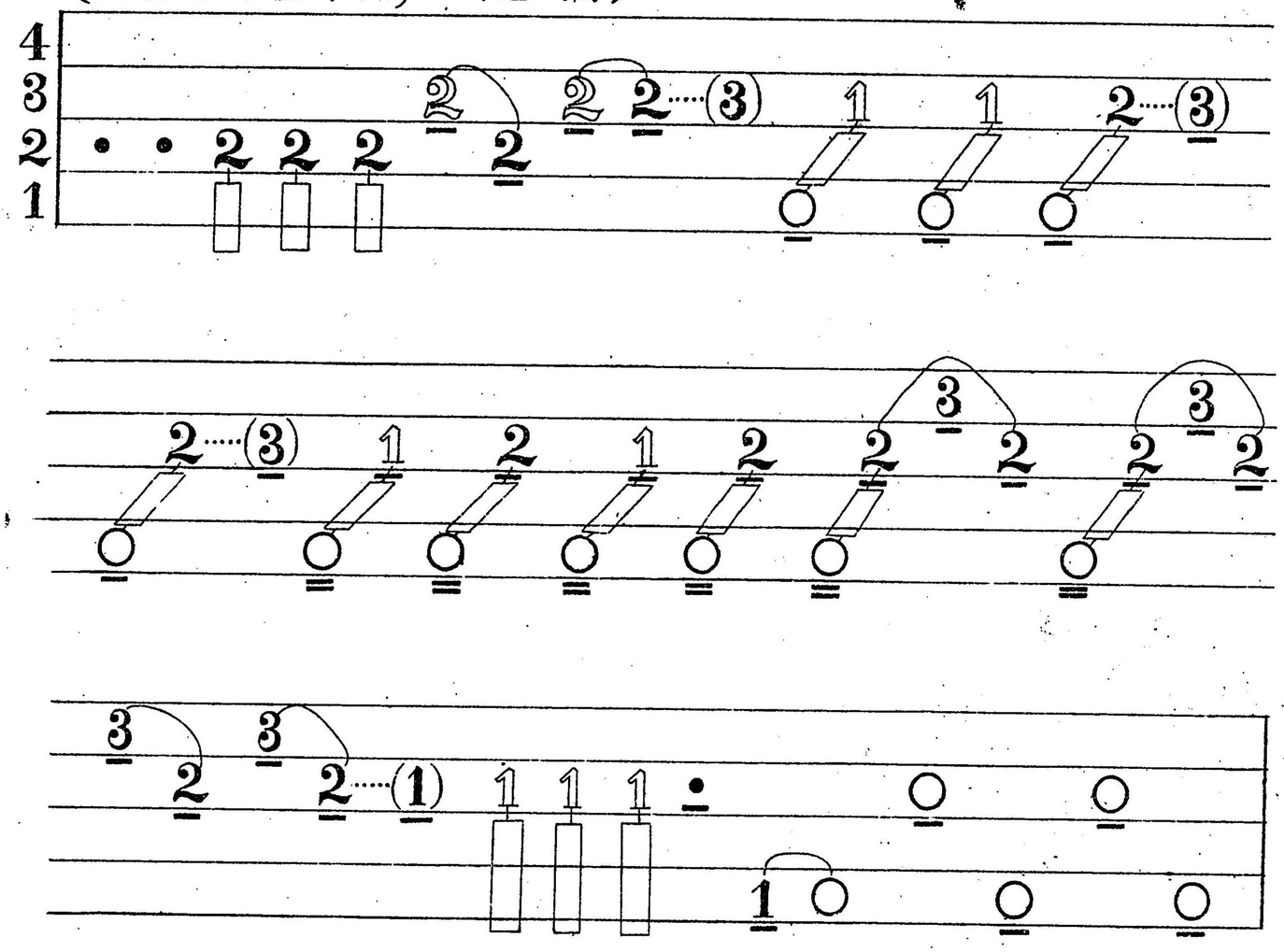
（總計拍子六十七）　〔並調〕

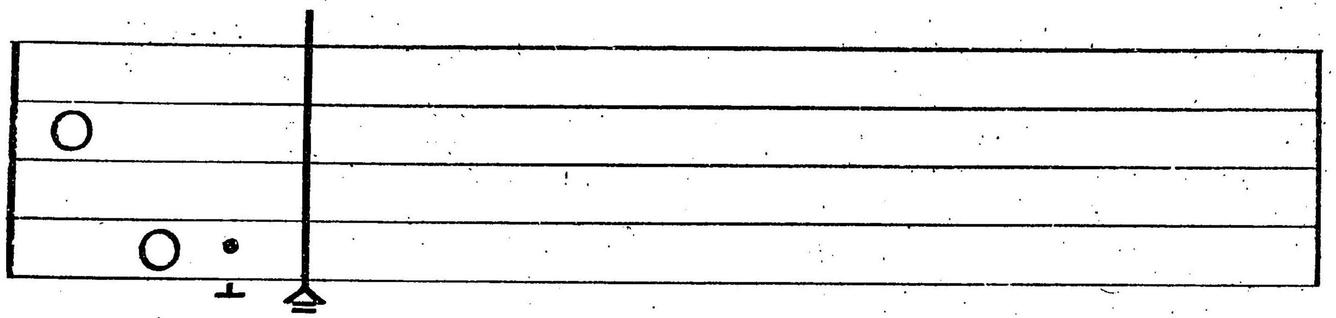




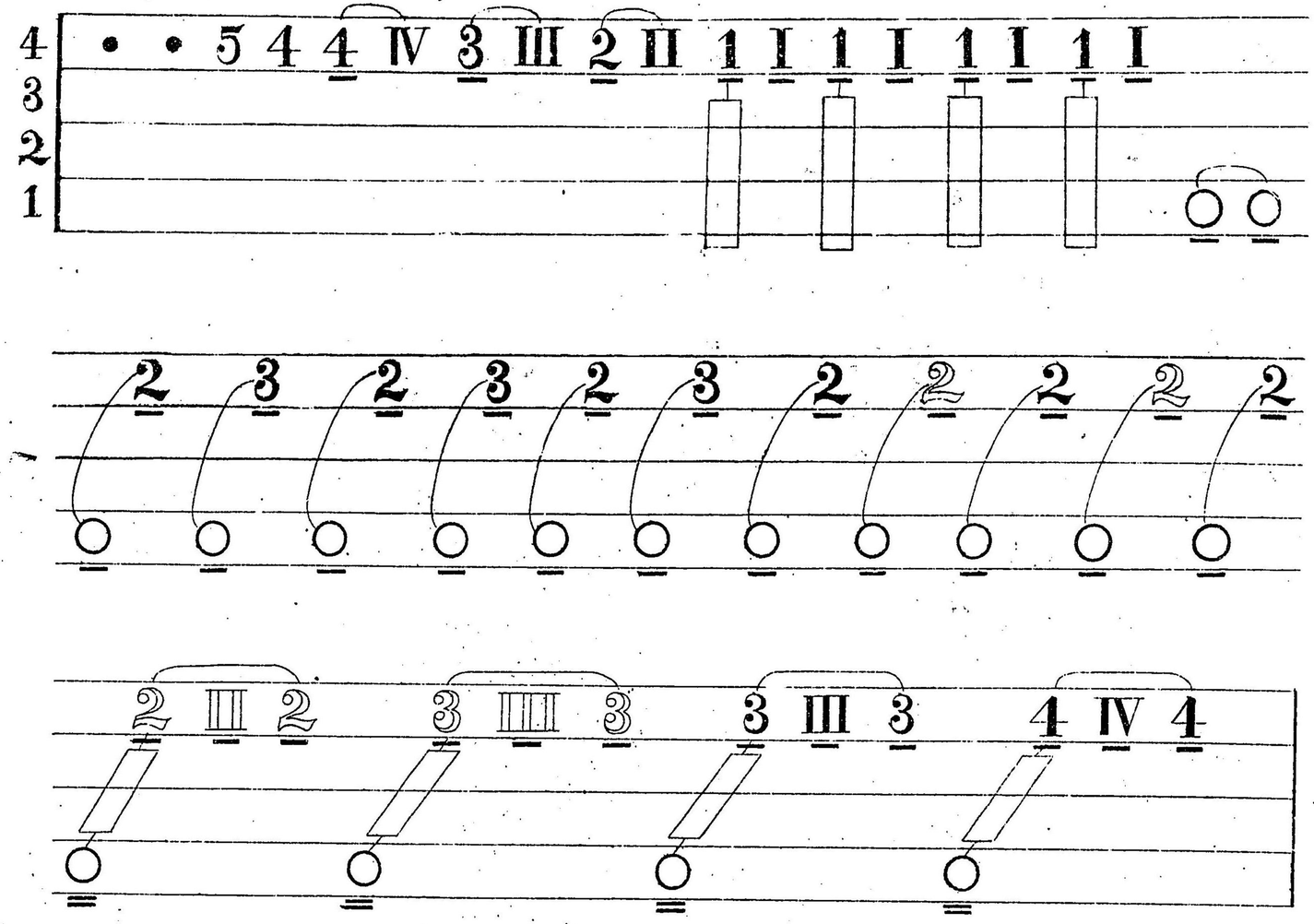


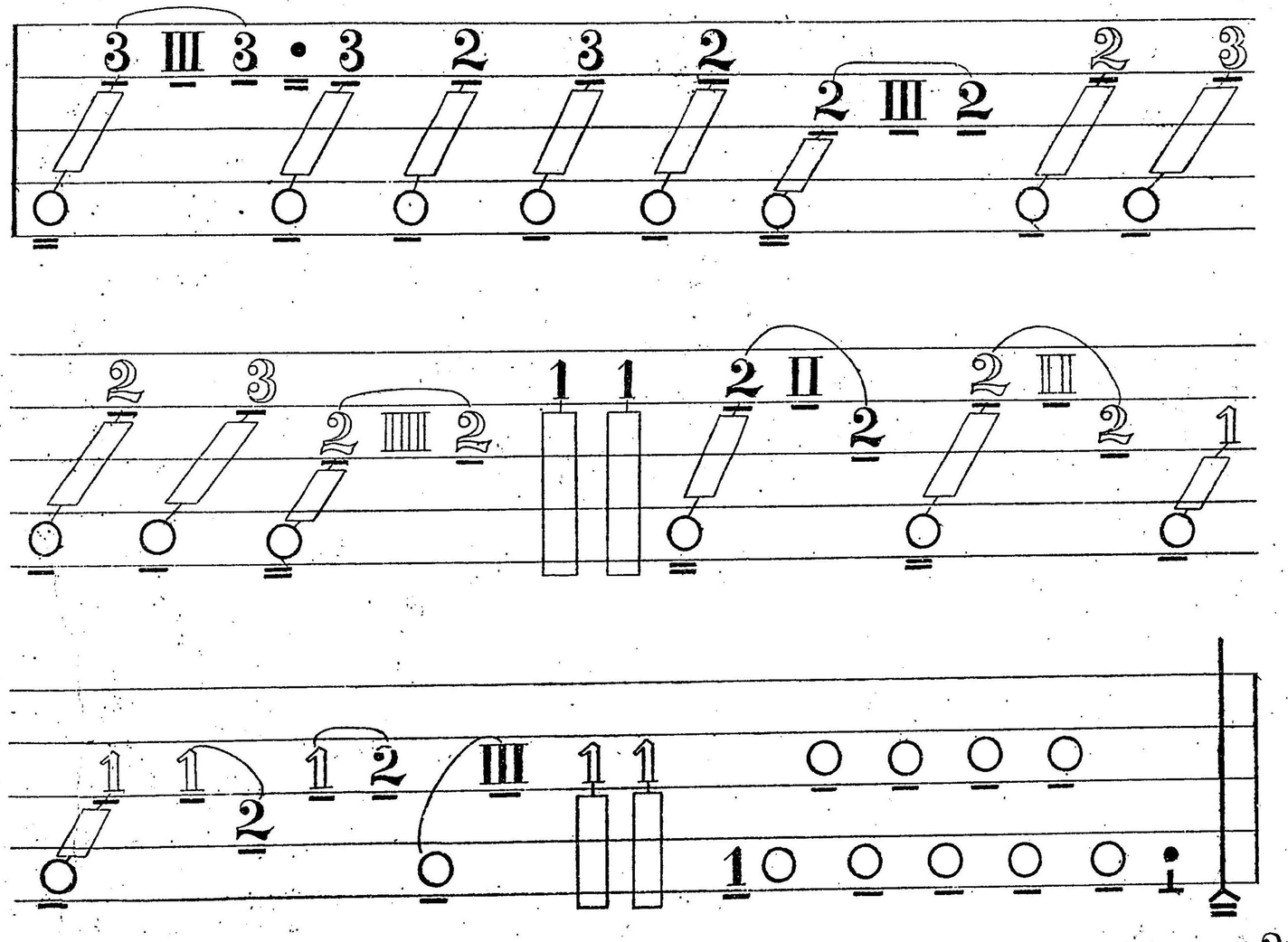
(總計拍子三十三) 〔急調〕





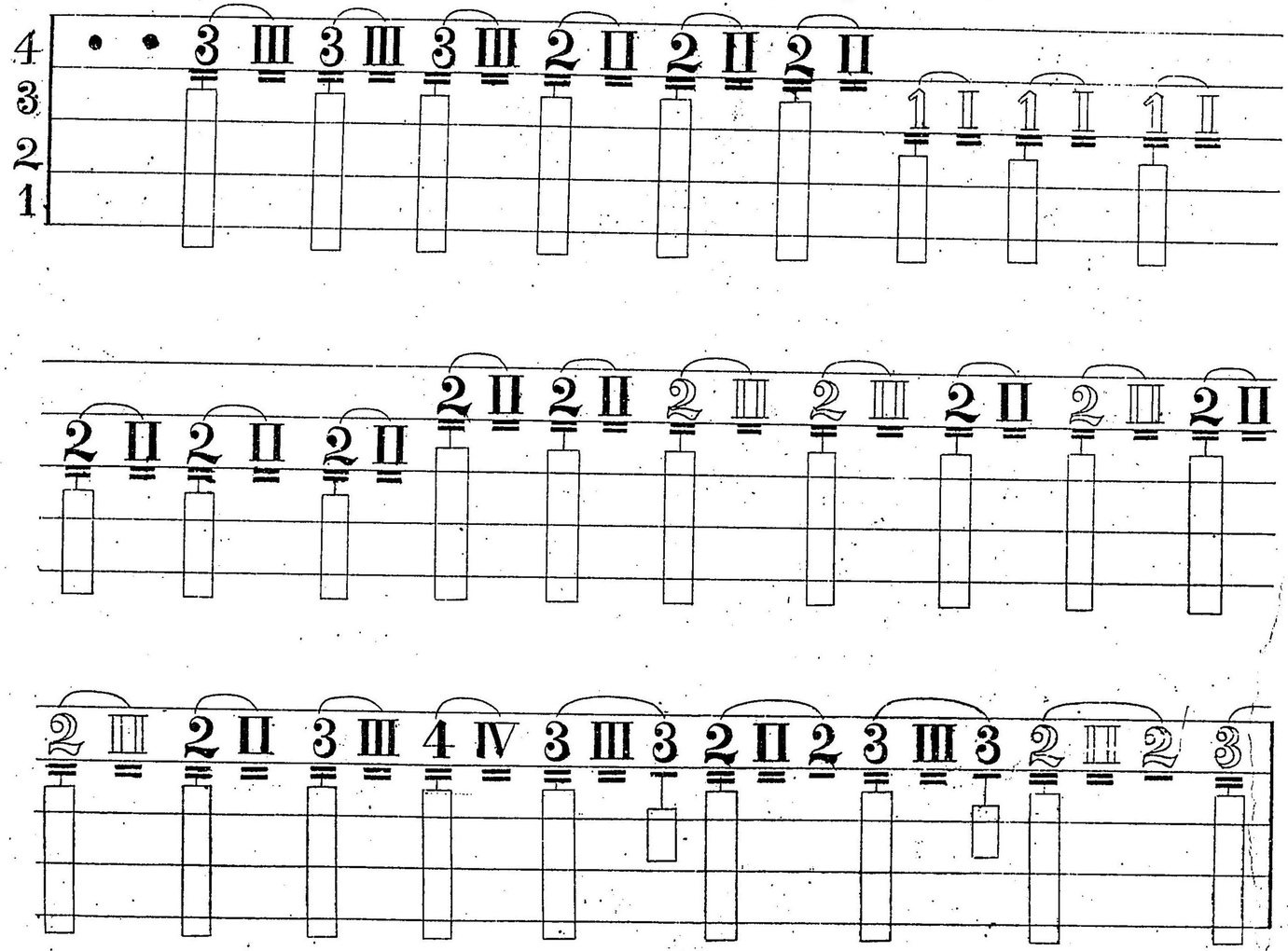
(總計六十四拍子)　〔急　調〕

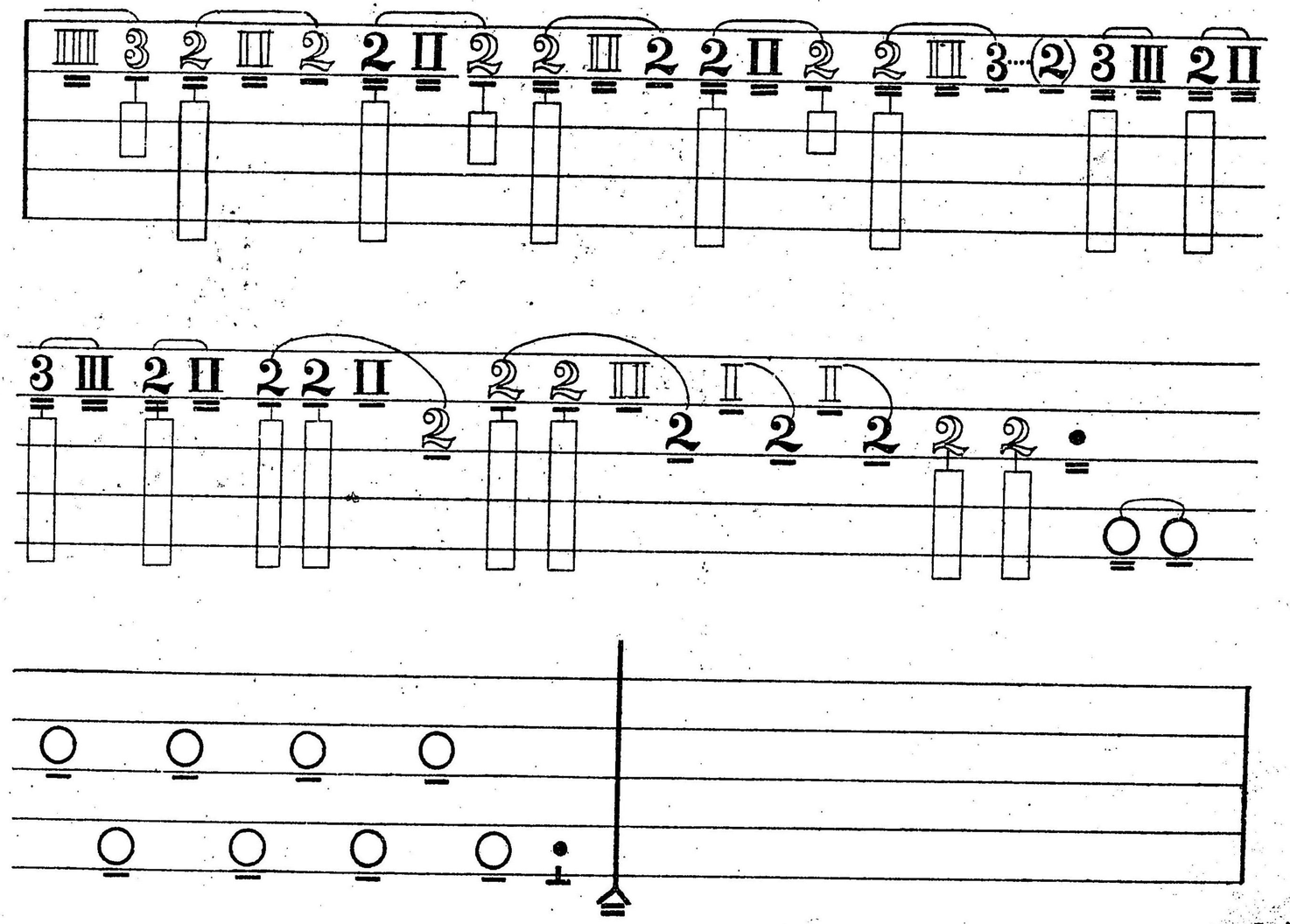



3 III 3 • 3 2 3 2
2 III 2 2 3
2 3 2 IIII 2 1 1 2 II 2 2 III 2 1
1 1 2 1 2 III 1 1
1 0

崩■中段の一

（總計拍子四十）〔急調〕

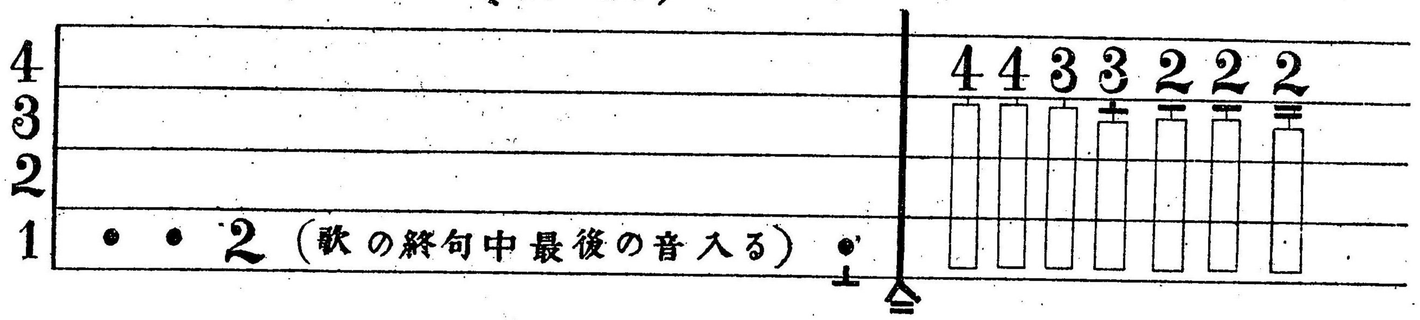


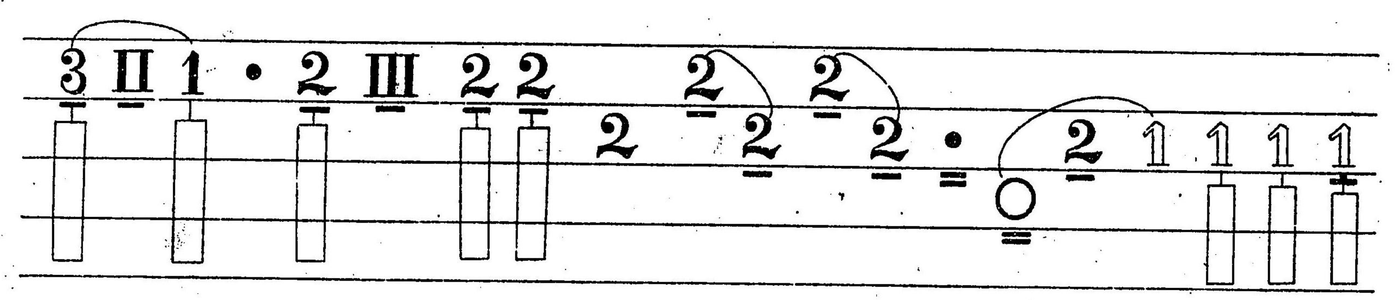


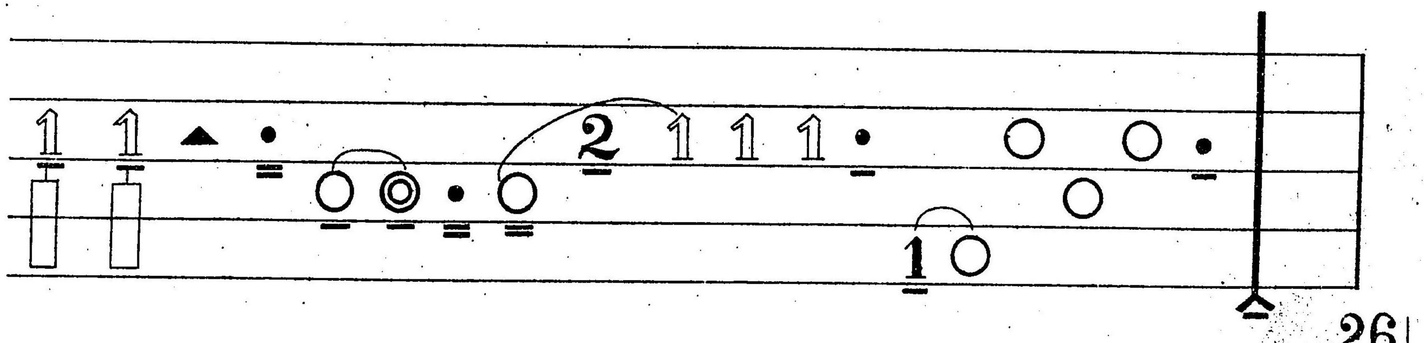
終曲

終曲（下段）

（總計三拾五拍子）〔緩　調〕







明治四十四年二月二十日印刷
明治四十四年二月廿五日發行
（定價金壹圓）

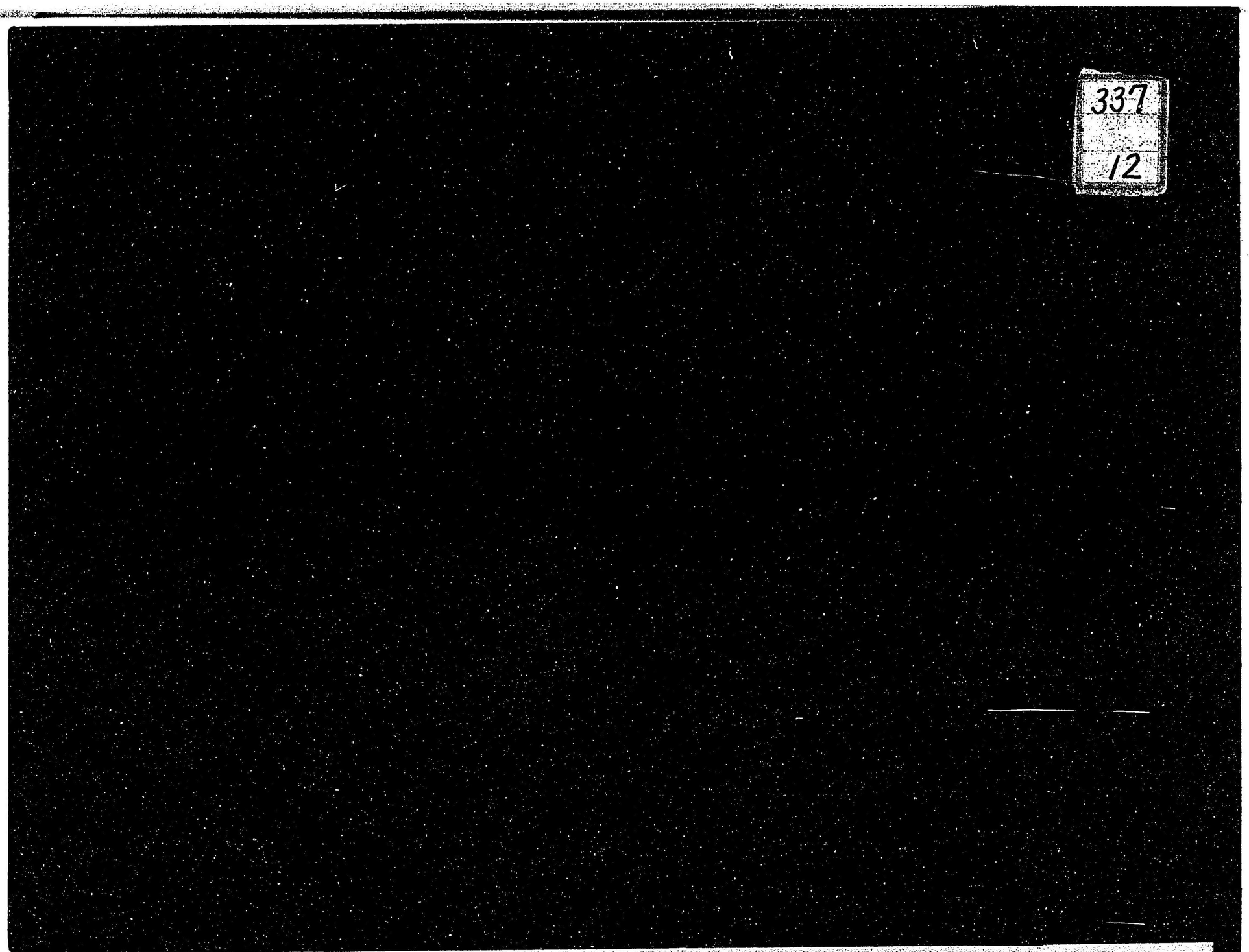
薩摩琵琶彈法〔不許複製〕樂理ト樂譜

著者　法學士　南波杢庵
發行者　京都市佛光寺通烏丸東入上柳町十番戸　東枝吉兵衛
印刷者　京都市三條通白川橋下ル東入　笹川延太郎
印刷所　京都市下立賣新町東入　京都印刷所
發賣所　東京市日本橋區本町三丁目　博文館
振替貯金口座東京二百四十番　販賣部用電話本局二六二〇番

337-12

◁材料精撰▷
◁細工巧妙▷
◁價額低廉▷
薩摩琵琶製造
京都市新京極三條南入角
重田樂器店
電四五七三

887
12

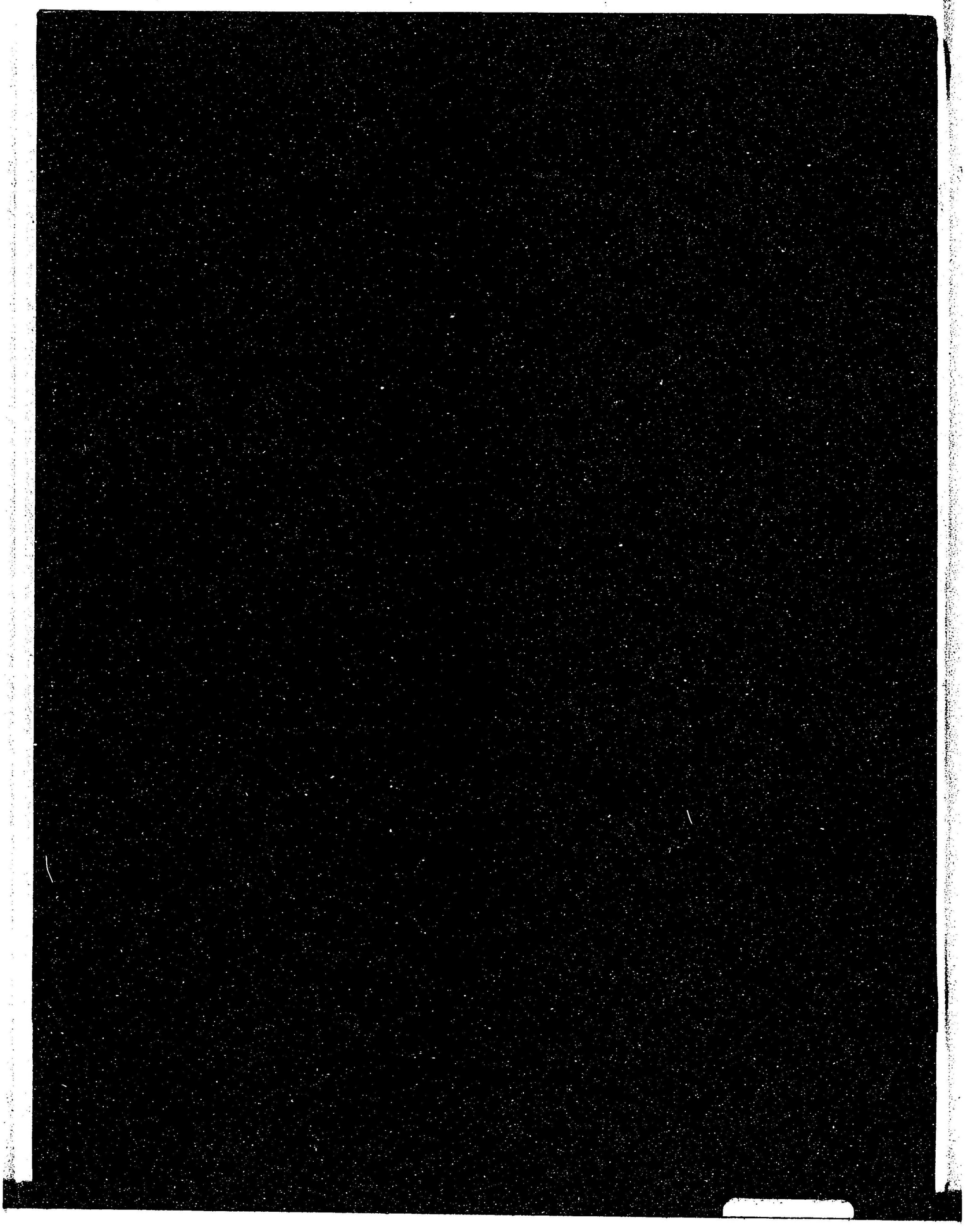

337
12

074647-000-4

337-12

薩摩琵琶弾法楽理と楽譜

南波　杢庵／著

M44

CEJ-0156